

認定農業者だより

第24号

R4.2

認定農業者数 (R3.3現在)

管内計：1,164

矢板市：165

さくら市：317

那須烏山市：172

塩谷町：117

高根沢町：262

那珂川町：131

農業経営の発展に向けて法人化を検討しましょう

経営者として夢をもつこと、熱意こそ農業の原動力

●株式会社 みなかわ牧場 代表取締役 皆川美範氏●

那須烏山市小木須地区の皆川美範氏は、令和2年7月1日に株式会社みなかわ牧場を設立しました。現在は役員2名と従業員3名で成牛165頭、育成牛80頭、飼料作物16haの酪農経営を行っています。

皆川氏は、昭和56年3月の卒業後、神奈川県先進的酪農家で1年間実習生として経験を積み、昭和57年5月に就農しました。当時は、両親が成牛13頭と水稲を経営していましたが、米政策の強化と中山間地域という条件を生かし、酪農を中心とする経営に転換しました。

就農6年目、昭和63年(25歳)の時、後継者育成資金で畜舎の増設と育成牛を導入し36頭の経営となりました。その後、結婚を機に両親から経営を移譲され、平成13年(39歳)に農業公社の事業により牛舎と堆肥処理施設の整備及び育成牛60頭を導入しました。計画的に規模の拡大を図り、現在では成牛・育成牛245頭の酪農経営を行っています。また、地域の畑や水田を牧草地として積極的に借り受け、ほ場に飼料作物(デントコーン)を単作で栽培し飼料自給率の向上と耕作放棄地対策に積極的に取り組んでいます。

皆川氏は、経営者として酪農経営を発展させ、社会的信用を得るためには法人化が必須であると数年前から考えており、畜産において飼養管理は年中無休ですが、不定期ながら休日を

導入し、仕事にメリハリをつけ勤労意欲の向上に努めています。そして、役員や従業員は健康保険、厚生年金、労災保険等に参加し、社会保険の負担は軽いものではありませんが保障の充実に努めています。

みなかわ牧場の特徴は、畜舎内で牛をつながずに自由に歩き回れるスペースを確保しストレス解消をはかるフリーストール牛舎で、スイング式パーラー12基を整備し併用することで安定した産乳量と管理作業の省力化を進めています。また、近年、飼料価格が高くなりつつあるため自作の飼料作物(サイレージ)と濃厚飼料の混合割合を工夫しながら給与することで、基準以上の産乳量と良好な乳質及びコスト低減を実現しています。

皆川氏は「経営者として夢をもち、熱意こそ農業の原動力」を信条に、人と牛の環境に配慮した持続性の高い「酪農経営」と「ゆとりのある生活」を今後も続けていきます。



編集・発行 塩谷南那須農業振興事務所

矢板市鹿島町20-22 TEL: 0287-43-2318 FAX: 0287-43-4072

認定農業者紹介

一集落一農場での大規模土地利用型農業経営

高根沢町 石塚 哲夫・山中 孝仁さん

高根沢町の山中孝仁さんは、結婚を機に12年前に就農し、農業後継者として経営主である義父の哲夫さんと2人で水稻、二条大麦、大豆を作付けし、2年3作体系でブロックローテーションを行いながら、延べ85haの大規模土地利用型農業経営を展開しています。

石塚哲夫さんは、一集落一農場の考えのもと農地の集積・集約化を図り、農地は2km四方の範囲内にほぼ集約され、畦畔除去等により連坦化、大区画化し効率的に作業できるようにしています。

哲夫さんの農業経営の信条は、「手抜きをしないことが、最大の手抜き」として、常に農作業に取り組まれています。

2人での栽培管理がこなせる作業体系とするために、200筆あるほ場を地図上に落とし、水稻5品種（コシヒカリ、とちぎの星、なすひかり、ほしじりし、あさひの夢）で作業を分散しています。また、「ムリ」、「ムダ」、「ムラ」をなくすよう1年間の作業体系を考慮して、作業の合理化を図っています。手段として、田植機には直進アシス

ト機能の装備、不整形ほ場ではGPS機能を活用したドローンによる病虫害防除。フレコンシステムによる調整作業の効率化、雑草稲、斑点米カメムシ対策として色彩選別機を導入するなどにより、時間当たりの労働生産性を向上させています。ほ場については、農閑期に少なくとも3年に1回はレーザーレベラーでほ場の傾斜均平化を図り、除草効果の発揮、作業性の向上でムリ、ムダをなくしています。

今後は、農業後継者である孝仁さんを中心に縁戚関係にある2人を雇用する等、集落密着型の一集落一農場経営を目指しています。



「土づくり・草づくり・牛づくり」での高収益酪農経営を目指して

那須烏山市 小口 和則さん



那須烏山市の小口和則さんは、本人と妻・両親で酪農経営を行っています。現在成牛58頭と育成牛29頭を飼育し、飼料作物は2毛作（デントコーン+イタリアンライグラス）で延べ14.3ha

を栽培しています。

収益向上を図るため、家族労働での負担軽減や牛舎の収容能力を最大限に活用し、育成牛の大部分を預託（4ヶ月齢～分娩3ヶ月前まで）しています。また、つなぎ牛舎ではありますが、ICTを活用した技術として発情発見装置を導入し、観察とデータで繁殖管理を行い、泌乳量は10,000kg/頭の高い生乳生産性を維持しています。

今後は、ゲノム検査を行い、これまで経験で行っていた牛群管理を数値により把握し、健康で泌乳能力の高い後継牛を確保していきます。

搾乳牛の飼養管理については、ミルクカーの搬送ラインを整備することで労働強度の軽減と、自動離脱装置により搾乳の作業精度のバラツキがなくなり牛のストレス軽減になることで乳房炎の発生も大きく削減できています。

自給飼料生産については、畜産クラスター事業を活用し、機械の共同利用・共同作業を行うとともに、すべてロールバールサイレージ体系とすることで、軽労化、品質の安定化を図ることができています。

現在は、家族労働4人での酪農経営ですが、将来本人夫婦での酪農経営を見据え、酪農ヘルパーを活用し完全休日がとれるよう、本年度哺乳ロボットを導入し、家族との時間を大切にしながら収益性の高い酪農経営を目指しています。



夫婦2人での安定した土地利用型経営を目指して

矢板市 菅沼 利昌さん

矢板市の菅沼利昌さんは、本人夫婦2人で、水稲（20ha）、水稲育苗ハウスを活用したしゅんぎく栽培（15 a）で農業経営を行っています。

農業経営改善計画では、令和5年に経営規模を15haに規模拡大する目標をたてていましたが、すでに水稲は20haの経営規模となっており、地域の担い手として確固たる地位を築いています。

水稲は、主食用米を主体に加工用米、備蓄米を生産し、農地の立地条件や労働配分を考慮し作付けを行うことで、効率的に管理作業ができる体制としています。

農地は集積されていますが、市内7カ所、塩谷町に3カ所と農地が分散していることから、今後は農地の集約化を進めることとしています。塩谷町の水田については、現在は利昌さんの父親が水管理を行っています。将来を考えて、「人・農地プラン」を活用し、農地の団地化を図っていく

ことや水管理システムの導入について検討しているところです。

山間の水田では、特に斑点米カメムシにより品質の低下が問題となっていたことから、令和3年に制度資金を活用し、色彩選別機を導入したことで、すべて1等米の出荷となり、精神的にも楽になっています。

また、規模拡大に伴いフレコン、乾燥機も併せて導入することで、コンバインの能力を最大限発揮できる機械装備となったことから、コスト低減にもつながっています。

今後は、米の需要動向を見据えながら、飼料用米や土地利用型園芸作物の導入も検討し、さらなる収益の向上を図りたいと考えています。



経営改善・発展のために経営支援を行っています

—あなたの経営課題解決のために無料の専門家派遣を活用してください—

塩谷南那須農業振興事務所では、農業経営の法人化や経営継承、新規就農者の経営安定など、経営課題解決のための専門家によるアドバイス等の経営サポートを行っています。

課題解決のための総合調整が出来るコーディネーターを配置し、農業経営改善及び発展につながるフォローアップを行うとともに、個別経営相談会の開催や専門家（社会保険労務士、税理士、中小企業診断士等）を派遣し皆様の経営改善・経営発展のお手伝いをしています。

経営等の支援を希望する方は、農業振興事務所にお気軽にご相談ください。

(1) 専門家派遣

◆窓口相談者

・「相談カード・カルテ整理」（経営内容等の聞き取り）



◆経営診断・支援チームによる専門家派遣



(2) 農業経営個別相談会の開催

皆様の経営上の悩みを開設するために経営個別相談会を開催しています。気軽に相談会を活用してください。

（開催時期）年2回程度（8、12月頃）

（相談内容）経営継承、雇用、税務、法人化、経営全般等

需要に応じた米づくりの推進

主食用米の需要量が右肩下がり減少し、民間在庫量が増加している中、農林水産省が11月19日に公表した需給見通しでは、令和4年産主食用米等生産量を過去最低の675万トンと示されました。



令和4年産主食用米作付参考値

栃木県 44,652ha
(令和3年産から -6,389ha)
塩谷南那須地域市町合計 8,349ha
(令和3年産から -1,212ha)

主食用米の需給安定を図り、所得を確保向上していくためには大規模な作付転換が必要です。

収益性の高い麦・大豆の作付けや飼料用米の作付け及び単収向上、露地野菜の導入等をすすめましょう。



水田麦・大豆生産性向上事業

麦・大豆を生産する地域の生産者等による、生産性向上のための団地化の推進、先進的営農技術等の導入、機械・設備の導入等を支援します。

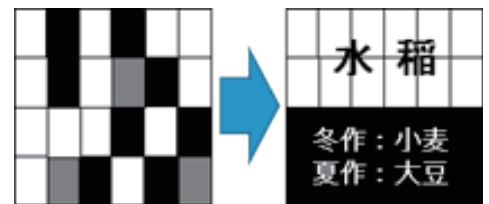
【主な事業要件】

- ・地域における麦・大豆の団地化や生産性向上（生産量、単収等）に関する成果目標を定めた「麦・大豆生産性向上計画」の作成
- ・事業実施主体における主食用米の作付面積が前年より減少している 等

【支援内容】

- ・話し合い等を通じた団地化の推進^{※必須}（補助率：定額）
- ・営農技術等の導入（補助率：定額）
湿害対策技術、効率的播種技術、需要に応じた新品種の導入等
- ・機械、施設の導入（補助率：1/2以内）

※導入する機械等については、動産総合保険等の保険（盗難補償及び天災等に対する補償を必須とする）に加入していただきます。



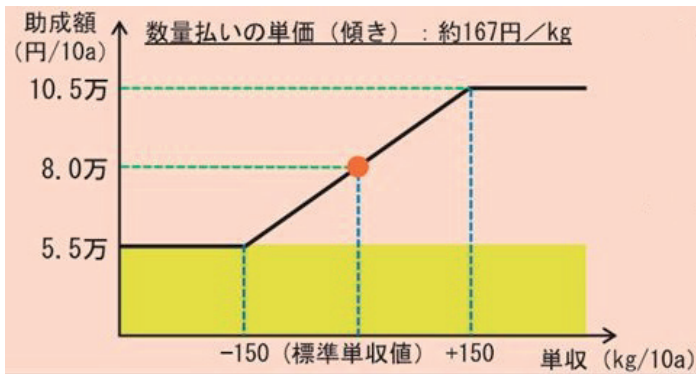
地域の話し合い

地域のこれからのこと
みんなで話して
みませんか？

露地野菜の導入については
6ページをご覧ください

飼料用米の多収栽培により農業所得確保

飼料用米は多収になるほど戦略作物助成額が増える（最大 10.5 万円 / 10a）



（農林水産省「令和3年度経営所得安定対策等の概要」より抜粋）

主食用米からの転換作物は、同じ機械が使える「飼料用米」への転換が取り組みやすいです。令和2年産の県平均交付単価は、83,030円/10a（管内市町平均交付単価は、75,325～86,222円/10a）で、最大の10万5千円を交付されている人は少ないです。

最大の10万5千円を目指すためには、「多収のポイント」を参考に栽培することがおすすめです。肥料代等は増えるが、増収し資材代以上の収益向上につながると見込まれます。

多収のための飼料用米単収向上技術

多収の
ポイント

①地力向上のための堆肥施用

特に「あさひの夢」は茎が太く、地力を消耗するので必要。

目安は、牛ふん堆肥なら1t/10a、鶏ふんペレットなら150kg/10aを毎年施用

②早く植える

遅くなるほど出穂が遅れ減収する。

③基肥多肥 と 適期の穂肥施用 または 全量基肥肥料の増肥

○施肥基準

- ・ 作期：早植
- ・ 品種：あさひの夢
- ・ 施肥（10a 当たり）

堆肥：牛ふん堆肥 1t または 鶏ふんペレット 150kg



①基肥+穂肥

基肥窒素	穂肥窒素	穂肥時期
8	4	出穂前 20～23 日（幼穂長 3～5mm）

※穂肥は2段階で溶出する「BBNK202」が良い

②全量基肥

肥料の種類（例）	成分（%）N-P-K	施用量（kg）
BBファイト066	30-6-6	35

※生育量が不足する場合は穂肥（N: 2～3kg）施用

注）施用量は、地力および日照条件等の栽培環境により加減する。

「あさひの夢」より倒伏しやすい品種は基肥を減肥する。麦跡になると特に倒伏に弱くなる品種もあるので、入れすぎないように注意する。

露地野菜をはじめませんか

～機械化一貫体系で省力化が可能です～

ねぎ

生食用、業務加工用ともに需要が多く、販路が安定しており、価格変動が小さい野菜です。露地の秋冬どり栽培が中心で、水稲との作業競合が少なく、最近は栽培技術の向上や新品種の開発などから、一年をとおして栽培・出荷をすることも可能です。播種から出荷まで作業ごとに栽培規模に応じた機械があり、機械化一貫体系で省力化が可能です。



作付けが年々拡大しており、塩谷南那須管内では、現在約30haの面積となっています。JAしおのやねぎ部会・JAなす南ねぎ部会では新規栽培者向けのは場見学会を開催しています。

○作型

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水 稲			○ 播種	△ 田植え						■ 収穫		
ねぎ(秋冬どり)			○ 播種	○ 定植	△ 定植							■ 収穫
	■ 収穫											

○経営試算目安(10アール)

収量(kg)	単価(円/kg)	売上(円)	経費(円)	所得(円)
3,000	250	750,000	400,000	350,000

※販売先により単価は変わります

さつまいも



県内さつまいも加工業者向けに、加工用(干し芋等)の需要があり、比較的価格が安定しています。さつまいもは定植から収穫までの生育期間は労力がほとんどかからず、水稲との労力競合が少ない野菜です。マルチ栽培なので雑草防除は容易で、主要作業ごとに専用機械があり、機械化一貫体系で大規模栽培も可能です。

作付けが年々拡大しており、塩谷南那須管内では、現在約21haの面積となっています。JAしおのやさくらさつま芋部会では新規栽培者向けのは場見学会を開催しています。

○作型

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水 稲			○ 播種	△ 田植え						■ 収穫		
さつまいも				△ 定植	△ 定植	○ 畝上げ・マルチ					■ 収穫	
												○ 除草・管理作業

○経営試算目安(10アール)

収量(kg)	単価(円/kg)	売上(円)	経費(円)	所得(円)
2,500	97	242,500	135,000	107,500

※販売先により単価は変わります

新農業士・名誉農業士の紹介

1月11日、県公館において農業士1名、名誉農業士5名が新たに認定され、栃木県知事より認定証書の交付を受けました。



〈新農業士〉 加藤 博樹（パートナー）知子さん（矢板市、りんご）

Uターン就農後、規模拡大に努め、現在は県内でもトップクラスの規模の樹園地を誇っています。平成29年には経営を法人化しました。また、林檎バターなど様々なりんごの加工品を開発し、県内外で販売するなど6次産業化にも取り組んでいます。

〈新名誉農業士〉

○志村 一幸さん（パートナー）則子さん（塩谷町）

平成14年度に栃木県農業士に認定され、新技術を導入して酪農の経営発展に努めるとともに、WCSの収穫組織を設立、町内で活動されています。また、塩谷町酪農組合長、塩谷町認定農業者協議会長などを歴任され、地域農業のリーダーとして活躍されました。



○福田 吉男さん（パートナー）栄子さん（塩谷町）

平成16年度に栃木県農業士に認定され、ハウス回転率を上げながらも、高品質なスプレーぎくの周年栽培を行っています。また、JAしおのや塩谷花卉部会長等を歴任され、地域農業の発展に寄与されました。



○平石 陽一さん（パートナー）美代子さん（矢板市）

平成21年度に栃木県農業士に認定され、輪ぎく（黄色）の主力品種を導入、普及させるなど高品質な輪ぎく生産に取り組んできました。また、矢板市農業委員等を務めるなど、地域農業の発展に寄与されました。



○高野 順子さん（パートナー）郁生さん（那須烏山市）

平成13年度に栃木県女性農業士に認定され、ET組合を組織して優良血統の子牛生産に尽力されるとともに、耕作放棄地発生防止に貢献されています。また、農村生活研究グループ協議会の役員等を歴任され、農村女性の育成を支援されてきました。



○大村 恵美子さん（パートナー）勝範さん（さくら市）

平成14年度に栃木県女性農業士に認定され、地場産野菜等を加工・販売する体制を整備するなど地域発展に寄与されました。また、県女性農業士会で食農スゴロクを作成するなど、子供たちへ食と農の理解促進に努められました。



各種コンクール等結果

今年度のコンクール等の結果は下記のとおりでした。入賞おめでとうございます。（敬称略）

○第3回（令和3年度）栃木県農業大賞

【栃木県知事賞】

農業経営の部：青木康彦・雅子（那珂川町）

芽吹き力賞：手塚徹・智香（さくら市）

【下野新聞社長賞】

農村活性化の部：下芳井ほたるの会

会長 福島一廣（那珂川町）

○令和3年度栃木県土地利用型園芸コンクール

【審査委員特別賞】手塚 弘樹（塩谷町）

○2021年（第49回）毎日農業記録賞

【宇都宮支局長賞】金田 緑（矢板市）

「花を通じて社会を幸せに～農業への挑戦～」

○令和3年度優良担い手表彰

【栃木県担い手育成総合支援協議会長賞（最優秀賞）】

【栃木県知事賞】

優良認定農業者（法人）の部：匠屋株式会社（さくら市）

○令和3年度関東ブロック農村青少年クラブプロジェクト実績発表会

【優秀賞】土地利用型作物部門 見目 智史（高根沢町）

「スマート農業のススメ」

地区認定農業者協議会の動き

◆塩谷地区認定農業者協議会

全国農業担い手サミットin
いばらきは11月18日にオンラ
イン開催となり、各市町にお
いて参加し、認定農業者の経
営改善に向けた取組について
研修が行われました。



<https://ibaraki-ninaite.jp/>
(外部サイトへリンク)

今後は、役員会を開催し、
令和3年度定期総会を3月に開催します。
全国担い手サミットについては、
<https://ibaraki-ninaite.jp/>で閲覧できます。

◆南那須地区認定農業者連絡協議会

震災復興10年目を迎えた岩手県、宮城県での視
察研修を計画しましたが、新型コロナウイルス感
染拡大防止のため、開催を見送りました。全国農
業担い手サミットinいばらきは11月18日にオンラ
イン開催となり、各市町において参加し、認定農
業者の経営改善に向けた取組について研修が行わ
れました。また、優良担い手表彰事業を本年度も
開催し、取組内容を共有し、経営改善に資するこ
ととしています。令和3年度の定期総会を4月に
開催します。

令和4(2022)年度「とちぎ農業ビジネススクール」受講者募集

本県農業をリードする先進的な農業経営者を育成するため「とちぎ農業ビジネススクール」受講者を募集します。

対象者 経営の高度化を目指す意欲のある本県在住の農業者（農業従事経験が概ね3年以上かつ45歳程度まで）

研修期間 令和4(2022)年6月21日(火)から令和5(2023)年2月28日(火)(講座開催回数16回)

会場 栃木県農業大学校

受講料 30,000円

申込方法 令和4(2022)年2月11日(金)から5月6日(金)に所定の申込書に記入の上、塩谷南那須農業振興事務所経営普及部または農業大学校教務部園芸経営・研修担当に提出願います。

問い合わせ先 栃木県農業大学校教務部園芸経営・研修担当 電話 029-667-4944

【内容】

◆経営改革プランニング

- ・経営の個別課題を整理・分析し、実践可能な5カ年の経営改革プランを作成します。
(講義、グループ討議、プラン作成)

◆経営者マインドセミナー

- ・幅広い視野を身につけて、経営者としての意識改革を促します。(講義、演習)
(現在活躍中の農業経営実践者との対話を通じて、経営能力を開発)

◆経営スキルセミナー

- ・経営改革プランを実現するために必要な経営スキルを身につけます。(講義、演習)
(マーケティング戦略、商品開発、会計・財務管理、雇用・労務管理等)

(受講者の声)

- ・自分の現状を把握することができ、自分の経営について考えるきっかけになった。
- ・考えていたことを書き出すことで、問題点を可視化できた。
- ・グループワークでの話し合いは、気づきが多くて、とても楽しく学べた。・ゲーム感覚の授業がとてもわかりやすかった。

